

『ムクの木・ユスの木』

ムクの木とユスの木は、市野々川の河内神社の境内に隣り合っており、そびえ立っています。両方とも木の幹はかなり大きく、枝は八方に伸び、境内はうっそうとして見上げるとその風格に圧倒されます。

※昭和51年4月11日佐賀町文化財(天然記念物)指定。

■ムクの木

昭和50年に、佐賀の天然記念物に指定されたニレ科の落葉高木。成長が早く、よく枝分かれし、幹は直径4mにもなります。

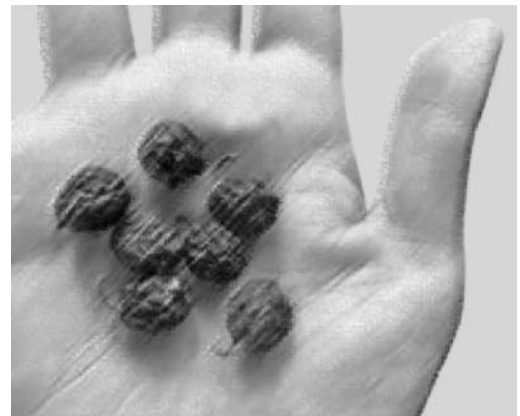
樹皮は、灰褐色で縦に浅い筋がついています。

葉は、節ごとに方向が同じにならないようにしており、卵型で縁に鋭い鋸歯(ぎざぎざの切れ込み)があるのが特徴です。葉の表面はざらざらしていて、サンドペーパーの代わりになります。昔は「漆器の目地」、「象牙」や「べっこう」などの研磨などに使ったようです。

春、葉が開くころに淡緑色の花が咲きます。

果実は小さいですが、秋になって熟すと紫黒色や黒くなって甘くて食べられます。

今と違って甘いものが無い時代には、子どもたちが争って取っていたのではないかと思われま



■ユスの木

ユスの木は枝ぶりもよく、葉も生い茂っています。この樹種の老木は極めて珍しく、町の天然記念物としてとても大切に保護されています。

ユスの木は、本州の方では「イスの木」と呼ばれています。

また、結寿(ゆす)の木と漢字を当て、縁起の良い木とすることがあり、寺社に植えられることも多いようです。

木は常緑高木で樹皮は灰褐色、小さい多くの皮目があります。

この皮目が老木になると、うろこ状にはがれるようになります。

有田焼の柿右衛門窯では、木の樹皮を焼いて釉薬(うす)にするといいます。

また、材は国産材の中で最も硬く、釘も打ち込みにくいというほど硬いといわれ、建築、器具、楽器などに利用されています。

葉や枝に虫えい(虫こぶ)がつきやすい木で、虫によって虫えいの形がいろいろあります。

大きくふくらんだ虫えいが木質化したものを笛のように吹くと音が出るので「ヒヨノ木」といい、虫の出た穴から息を吹き込んで、笛にして遊んだのも、そんなに昔のことではありません。また、虫えいはタンニンを含むので染料に利用します。

